



校 刻
新 刻

風 月 生 集

風月生集
卷之八



於世持用

篇冠字尽

側咏磔

永

勤 策 掠 趨

永字八法

Handwritten examples of the character '永' in various styles and contexts, including '永字八法' and '永' used in compound characters.

風月往來

新春之清廣賀重冬

中鏡以年柳子日冲會

雅志存以雅不始子今

事以如秋風情重宿及



作面又後うあ道か茶煎
日影後取福遠く
震中松門柳風吹け
おく遊中
面白く
面白く

事梅約年高次
事梅約年高次

正月十日

清札委細
愚庭
香

先恒例のさるごとく法門の
 次順者事不勤法者名
 少人教の相承を結
 構以る情屏風釀成
 之幅花親香炉身者天

目建臺風爐釜傳紙の
 世々下家入の明後日
 下有桃李酒あり先何
 全推委以面存委細可
 讀いやとく抄之

三月廿

良久不家也 園公亦書 爲
極以作法 爲觀子 細以神
瀨寺 七百 年 龍 住 其 東 蓮
中 計 風 情 以 往 東 月 隨

有 陰 外 屯 需 亦 不 晴 以 故
者 經 日 數 符 驗 公 亦 不 惜
年 初 音 亦 作 勢 亦 亦 亦 亦
法 際 身 以 法 心 一 亦 法
悅 口 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

ある式の車取進を修む

四月廿日

積替し知妻細書書誠

雖おまねの柳少相頭

車更おまねの桑不出供の更

省筆念あるお月由の時分

何よりお法本法法書計

高痛くとも今も奥より輪

忘るる積ねく修定る現瓦

修めぬ其好ぶらに春の光

長以万事一切未報以^て 地^{かん}

六月廿二日

德進使者以^て 押^{もく} 汝^{このあつて} 名^{かん} 夫

那^{まんぢう} 地^ち 以^て 納^{なう} 凉^{りやう} 地^ち 本^{ほん} 志^し 也^や 教^{かう}

泉^{いづみ} 以^て 以^て 志^し 好^{このへんの} 志^し 教^{かう} 奉^{ほう} 奉^{ほう} 未^{まい}

會^{かい} 中^{ちゆう} 以^て 肉^{にく} 以^て 有^あ 増^{ぞう} 以^て 清^{せい} 意^い

以^て 中^{ちゆう} 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や

以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や

以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や

以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や 以^て 志^し 也^や

比具いけりののつりつりおちおちくくるるるるりりののききるるききんん
比具いけりののつりつりおちおちくくるるるるりりののききるるききんん

六月十日

依よ指さし事こと上上考考ふふ指さし忌忌礼礼
依よ指さし事こと上上考考ふふ指さし忌忌礼礼

於お七しち夕ゆふたたここももここ作し仍なほ小こ野のとと
於お七しち夕ゆふたたここももここ作し仍なほ小こ野のとと

社やしろ邊へ於お下した一いち足あし面めんとと指さし忌忌礼礼
社やしろ邊へ於お下した一いち足あし面めんとと指さし忌忌礼礼

後のち樂がく田た楽がく平へい家かのの曲せう存まも以い
後のち樂がく田た楽がく平へい家かのの曲せう存まも以い

下げ種しゅとと見み物ぶつ此こゝ一いちとと出で作し
下げ種しゅとと見み物ぶつ此こゝ一いちとと出で作し

つつてて因よ乃の申まを以いるるはは樂がく百ひゃく韻いん
つつてて因よ乃の申まを以いるるはは樂がく百ひゃく韻いん

社やしろ邊へ於お下した一いち足あし面めんとと指さし忌忌礼礼
社やしろ邊へ於お下した一いち足あし面めんとと指さし忌忌礼礼

七月廿日

雑ぞう母ぼ何なに事ことの細こまく申まを通とほ

し中ちゆう排はい心しん底ていのの又また時とき下した勢せい

之この中ちゆうのの事ことのの社しゃ法ぽう甘かん書しよのの事こと

也なり存ぞん之の事ことのの義ぎ以もつ杯はい名な月げつ出しゆ會かい

也なり之の事ことのの殊しゆ又また徳とくのの事ことをを説せつ

大だい切せついあいあ性しやう之の懐わい紙し寫しやうのの事こと

之の事ことのの穴けつ今いま坂さか也なりのの事こと

約やく之の事ことのの席せき也なりのの事ことのの月げつ也なりのの事こと

之の事ことのの事ことのの事ことのの事ことのの事こと

八月廿七

まじり

ごまきこん

十月廿八日清書今月十日

まじり

お東儀の取次奉り

ごせん

六年貞結毎之回儀

ごんげ

す隙に毎日正法方出仕

まじり
清書
清書
清書

まじり

割菊園の海文松液被仁

おんめ

沈定軍の魚又取系作

ごん

和漢儀の款程冊令を清

ご

清白毫系の忌之

九月十日

不審くも披露せしむる家務
以て松本前々後孫主信
難及の生ある清計奇
とてい次と沙汰と交理地成
故不撰親疎の諸人け侍

可達熱河也奉納人許
宜る所法分憲法取存以治
然酒肴料出用念いんす
由入魂く在実以一在る際
なる海落家いしりて計く

十月

こん ころの とも けんがら ぬきとら しのいひころ

と細為消物書一翳

の久持系中後物おしる

早くおあしお園乃異可性

存しおゆく時お後河乃間

息長氏久男と用とさ性

可合興約の恐惶書

表月

歳末くお終ひと湯下り

しにおおぬいし湯下り會

計北山梅三條之系也
 中書省料魚島麻兔炭
 薪之山何松葉書法也
 園對障下春申の忍檀羅也

十二月廿四日

大令古状抄	守子潤法記	五世維世三世桐
御家古状抄	御徳座切記	掌中御用
教庭初姓来	改并委切記	御某彼式目
大字庭初姓来	御歳院城小鑑	女文章族方記
御庭初姓来	御家高貴姓来	并百人首記
教庭月姓来	御家守語教	諸國乃中記
字引古用状文書	御姓来物百人	御婦人書
本歌あつ入軍去	讀が親想て	御書並後

御書物所

山城及師兵衛

江少之...
修...
山...
...
...

天津...

...

...